

第7回 ニッケピュアハート エッセー大賞

<中学の部 優秀賞>

「本当の夢」

山本はるか

ごめんなさい。私は嘘をつきました。小学校の卒業文集に書いた“夢”、あれは嘘です。本当の“夢”を書くには自信がなくて、けれど“夢”がないのはなんとなく嫌で、曖昧にごまかしました。

3年たった今、私の本当の夢を宣言したいと思います。それは、“書道家になること”。小学校2年生の夏、友達の誘いで体験に行った書道教室。墨独特の匂いが醸し出す不思議な雰囲気。静かでほんの少し緊迫した空気。そのどれもがはじめてのはずなのに、どこか懐かしくて落ち着くような気がしました。

それから4年間、私は筆を持ち続けました。努力をした分コンクールでの成績も良くなり、いつしか“自分はできるんだ”そんな風に思うようになりました。そんな、少し浮足立ったまま臨んだ書き初め展。結果は去年と同じ県優良賞。「去年と同じかぁ。」少しがっかりしながら行った会場で、私は自分の未熟さを知りました。周りの作品は、どれも上手だったのです。どの作品も、確かな基本の技術に自分のアレンジが加わり“自分の字”になって輝いていました。明らかに私の作品は下手でした。はじめて自分の字を恥ずかしく思いました。悔しいような、けれどどこかで納得しているような複雑な気持ちでした。

そんな気持ちを整理できないまま家に帰り、なんとなく見た小学校の卒業文集。“夢”という題目で書かれている私の文章はやけにあっさりしていて、うすっぺらな内容でした。その時にわかったのです。今は実力も全然足りなくて自信も持てなくても、自分の夢を自分で否定したら必ず後で後悔すると。

中学卒業まであと少し。中学の卒業文集に本当の夢が書けるよう、まずは自分の夢を自分で応援することにしました。

「1本の筆を自由自在に操り“自分だけの一枚”をつくる、そんな書道家になりたいです。」